

October 25, 1978

**Record of Meeting between Prime Minister Fukuda
and Vice Premier Deng (Second Meeting)**

Citation:

"Record of Meeting between Prime Minister Fukuda and Vice Premier Deng (Second Meeting)", October 25, 1978, Wilson Center Digital Archive, Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan, 01-935-2, 016-027. Contributed by Robert Hoppens and translated by Stephen Mercado.

<https://digitalarchive.wilsoncenter.org/document/120019>

Summary:

Deng and Fukuda discuss Korea, Taiwan, economic cooperation, and the status of the Senkaku/Diaoyu Islands.

Credits:

This document was made possible with support from MacArthur Foundation

Original Language:

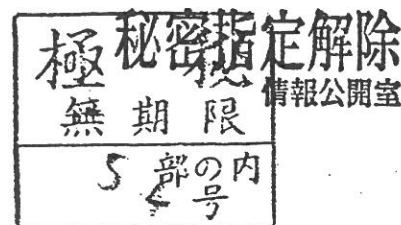
Japanese

Contents:

Original Scan

Translation - English

01-935-2

福田総理・鄧副総理会談記録
(第二回)昭和53年10月25日
中 国 課

10月25日午前10時より同11時25分まで1時間25分にわたり総理官邸において福田総理・鄧副総理第二回会談が行われたところ、同会談の記録次のとおり。(出席者は第一回会談に同じ)

記

(カメラマン等退出前)

鄧副総理: 福田総理との会談は、われわれ両国人民ばかりでなく、国際的にも注目されている。

福田総理: 世界の中での日中会談である。

鄧副総理: やはり喜んでくれる人が多い。しかし、いかなる場合でも必ず喜ばない人間がいる。このような人間は気にしても仕方がないから、気にしない。

(カメラマン等退出後)

福田総理: 皆さんおはようございます。毎日ハードスケジュールでお疲れのことと思うが、第2回会談を開始したい。会談に入る前に、日本政府及び日本国民の名において華国鋒総理の訪日が是非実現するよう招請したい。

鄧副総理: 福田総理の招待を華国鋒総理に必ず伝える。

中国政府と華国鋒総理は、喜んで御招待を受けることと思う。

福田総理: 謝謝(中国語で)。どんな話から始めるか。何か考えはありますか。

鄧副総理: (通訳が訳し終わらないうちに、それを打ちきるような形で)只今の発言をもう一度いい直す。私は華国鋒総理に代り、只今の福

田総理の御招待を喜んでお受けする。その方が、明瞭であり、懸案事項^いにならなくて済むと思う。(一同笑い)

福田総理： 謝謝(中国語で)。

鄧副総理： 一昨日は、本日の会談で朝鮮問題について話し合いたいということだったので、それについて私から話したい。この問題について双方の観点は、お互に分っているものと思う。先般、佐藤大使が帰国される前に佐藤大使ともこの問題について話し合ったが、中国政府は、福田総理や皆様が御存知のとおり一貫して、朝鮮民族の自主的な平和統一を支持している。われわれは朝鮮民主主義人民共和国の政策を支持している。何故ならそれは独立自主の政策をとっているからだ。

われわれは、朝鮮民主主義人民共和国について貴国より深く理解していると思う。何故このようなことを言うかという国際的に朝鮮情勢が緊迫しているという議論があり、朝鮮民主主義人民共和国が何らかの行動をとるのではないかと心配する人がいるからだ。福田総理及び在席の皆さんに申し上げるが、われわれはそのような心配をしていない。われわれは、朝鮮民主主義人民共和国が何らかの行動に出る兆はないと見ている。これは、外交的な発言ではなく、実情である。

国際間に存在する、一つの国が二つに分裂している状況は必ず改められると信じている。中国にも二つの中国という問題があるが、これは必ず解決できる。米国とこの問題につき現在交渉中である。二つの中国が認められないのは勿論、一つ半或は一つと4分の1の中国でも認められない。機が熟さなければ、ゆつくり解決すればよい。この問題は最後には解決できることは間違いない。ヴィエトナムも過去には同じ問題があつたが、現在は解決された。現在のヴィエトナムが、どうなっているかは別として、統一国家になったことは正義である。二つのドイツは大きな問題である。西独は民族の統一を強く要求

している。東独もその要求を持っている。現在のところ、未だ解決の条件が整う兆しは見られないが、いずれ解決できる日がやってくるだろう。100年かかって駄目でも、1000年かかって解決できるだろう。貴国の場合は二つの日本の問題はないかもしれないが、一つの日本ともう10分の1或は100分の1の日本(という問題)はあるかもしれない。この問題も、日本国民の感情からして必らず解決されると思う。日本国民のこうした感情を、われわれは一貫して支持している。

朝鮮の問題もこれらと同じ問題である。一つの民族が二つに分れている。従って、朝鮮の統一は南北両朝鮮人民の一致した願いである。問題は、その時期といかなる方法で解決するかということであり、そこにはまた統一の障害は何かという問題がある。先般、私が、朝鮮民主主義人民共和国を訪問した際、金日成主席と朝鮮半島の統一について話し合ったが、金日成主席の意見と朝鮮民主主義人民共和国の立場は、自主的に統一を図るということであつた。統一のための障害は米国の軍隊が南に駐留していることである。朝鮮戦争の時は中国の義勇軍がこれに参加した。義勇軍というのは名目であり、実際には中国がこの戦争に参加したということである。(一同笑い)。中国は朝鮮半島の北部において、米国は南部において戦つた。その結果38度線が保持できた。現在でも板門店で行われる会談には、いつも中国の代表が参加している。しかし、中国の存在は板門店に限られている。朝鮮戦争終了後、中国の軍隊は直に撤退した。それ故、現在、南北の統一に関しては、中国の存在は問題になつていない。ただ米国の存在が問題になつている。朝鮮民主主義人民共和国も、米国と直接会談を行なおうと言っている。米国は、国連軍の名目を使っているが、実際に駐留しているのは米国の軍隊である。従って朝鮮民主主義人民共和国の要求は答める余地がない。米国は、当初この会談に中国も参加した方がよいと薦めたが、われわれは、米国に対し、中国は、朝鮮半島に軍隊を

置いていないのだからその資格はないと答えた。米国は、先ず自国の軍隊を南朝鮮から引き上げるべきだ。その条件が満されれば、南北朝鮮民族による対話ができると考える。しかし、米国は撤兵することを引き続き拒否している。従ってこの問題がどのように解決されるかは今後の発展をみる必要がある。

われわれは、金日成主席が米国と会談を行いたい意向を持っていることを米国に伝えた。米国は、三者会談つまり米国と南北朝鮮の会談ということを行っている。しかし、朝鮮民主主義人民共和国はそのようなやり方に賛成していない。やはり、主要な点は、米国ないし米国と南朝鮮にある。というのは、南朝鮮には国連軍の指令部があるからだ。

中国としては、米国が軍隊を撤退させて、南北の対話が実現した方がよいと考えている。米軍が撤退するとアジアにおいて米国が果す安定のための役割が軽減する惧れがあると心配する人もいるが、米軍が数百キロ退ぞいても、そのような問題は起り得ないだろう。これが米国にとり一つの身を引くチャンスでもある。南北が直接対話を行えば米国の参加の問題はなくなる。以上が朝鮮問題に対する中国の態度である。南朝鮮のことはわれわれは知らない。接触はない。しかし、われわれは朝鮮民主主義人民共和国と米国に対しては、同じことを言っている。

この間佐藤大使とお会いした時、佐藤大使は、ソ連と朝鮮民主主義人民共和国との関係が何故うまくいつていないのかとの問題を提起されたが、その理由は非常に明白である。ソ連はどこでも支配したが、ソ連の要求を呑まないとソ連は相手の首を締めてくる。それについては中国は充分に体得している。一時期、朝鮮民主主義人民共和国は中国とソ連の関係をよく理解できなかつた。しかしソ連と長いこと交際しているうちに、自分自身も中国と同じような経験を持つように

なつた。ヴィエトナムも同じような経験をすることになるだろう。ソ連が朝鮮民主主義人民共和国に石油精製の工場を建設した。朝鮮には、石油が出ないのでソ連から石油の供給をうけることになっていた。この工場はソ連の石油だけを精製するようになっているにも拘らず、ソ連は工場が完成しても、石油を供給していない。これは全くの浪費である。これは一つの例にすぎないが、ソ連は同様のことをすることが多い。

ソ連に対し朝鮮民主主義人民共和国が一番不満に思っている点は、一方において朝鮮民主主義人民共和国とつき合っていないながら他方において南朝鮮との接触を頻繁に行っていることである。これによつて朝鮮民主主義人民共和国の民族的感情が害されている。ソ連の行動自身が南北の対話の障害になつており、南北の対話を困難にしている。

朝鮮問題に関し、中国は朝鮮民主主義人民共和国を支持して何らかの行動を起こすようなことはしないし、ソ連も策動して何かを引き起こすことはないだろう。朝鮮問題を解決するには未だ機が熟していないと考える。しかし、南北朝鮮が自ら行動をとらないかぎり解決の兆しはない。貴国は南朝鮮との関係が密切であることを中国も知っている。私及び中国政府は、日本政府と日本の経済界が朝鮮民主主義人民共和国との関係を緊密化することを希望している。貴国は、南朝鮮と接触するとき朝鮮民族の自尊心を傷つけないように気を遣つていると思う。日本政府も種々配慮した上でやつているであろうから中国としては、あれこれ言う積りはない。ただ、今は日本側から求められたので、中国側の意見を明きらかにしたものである。私の言つたことは必ずしも正しいとは限らない。私は何でも率直に言う。私は一兵卒に過ぎないから普通の兵隊の言葉で物を述べている。

福田総理： 只今の話を聞いて中国の朝鮮半島に対する立場は分つた。双方にはこの問題に関し共通した見方もある。朝鮮の南北間には戦争発

生の緊張はない。火を吹く危険性はないと考える点はそうである。

基本的な点としては、一つの民族が二つに分裂していることで、これは悲劇である。いつの日か、南北朝鮮が統一されるべきであり、この点については貴副総理閣下と意見が一致した。南北朝鮮が平和的に統一されること、つまり、話し合いによつて統一されるべしという点は、わが国が以前から一貫してとつて来た態度である。

只今、南北朝鮮が話し合いによつて統一されるには、米軍の存在が障害になっているという話があつたが、この点に関し、1972年南の代表者である李厚洛が北の代表者と対話を行つた。私はこの会談に非常に期待をかけたが、この会談はその後中断した。われわれはこのような努力が必要であると考えます。

日中平和友好条約も出来た今日、日中両国は日中友好という立場を踏まえ、中国は北朝鮮に対し話し合いをすすめ、わが国は韓国に対し話し合いをすすめるという、そのような話し合いの実現の機会を見つめながら努力するという可能性があるのではないか。南北の平和統一をすすめる上で日中両国がそのような最大の配慮をしていくべきではないかと考える。それは時間がかかるかもしれないが、そのような道を見棄てない方がよいと考える。

鄧副総理： 朝鮮民主主義人民共和国の立場を中国はよく承知している。その立場は主として「平和」「自主」ということである。佐藤大使にも申上げたが、朝鮮問題の処理方法は難しい。中国の方から余り容喙(注： 中国語；干渉)することはしたくない。というのは、行き過ぎたことをすると時として逆効果になる。私が一貫して支持していることは、平和で自主的な統一ということである。われわれは、金日成主席が色々な構想を持っていることを承知している。例えばその構想の一つに米軍の撤退後、南北が話し合い、朝鮮連邦のような形で統一を図るということがある。それは貴国も知っていることと思う。

-7-

つまり現実的な方法を、平和統一を実現させるために考えている。そのような方法であれば、南北ともに今まで通りの体制を維持していればよく、社会制度の改革の必要も生じない。そのような形で長期間に亘り南北がつき合えば、互に宥和を図り、問題を解決できるようになるだろう。

この機会にわれわれの台湾問題についての考え方を述べたい。この問題に関しては、われわれは米国及びその他の国の政治家にも言っているが、台湾の祖国復帰は、台湾の現実を考えてやる。米国に対しては日本方式をとるように言っている。もつとも何を日本方式というかについては色々な理解の仕方があるが、それがどのような方式であれ、台湾の現実を尊重し、日本方式を採るというのが、中国がないうる最大の譲歩である。台湾問題について、米国は、中国に対し何とかして武力解放しないという義務を負わせたいと考えている。しかし、何時、如何なる方法で台湾問題を解決するかは、中国の内政問題であり、米国は干渉することは出来ない。われわれの言い方は、台湾の現実を十分尊重しながら解決するというものである。日本方式というのも、この台湾の現実を尊重するという考え方に基づいている。

ある米国代表団の中に居た政治家は、もし米国が中国の主張する三条件即ち、条約を破棄すること、軍隊を撤退すること、国交を断絶することを受け入れた後、ソ連が台湾に入ってきたらどうするかという質問をした。私はその質問に対しそのような心配はないと答えた。というのは、われわれは台湾問題の解決につき、台湾の現実を尊重し日本方式をとることを考えているからだ。現在、日本の経済の要素が台湾に残っている。米国は日本より更に大きな経済力を台湾に有している。今後ともそれらの経済力は残り、更に民間の経済交流も引き続き行われるであろう。そうすればソ連が入ってくることは困難であろう。私は、逆にその政治家に、もしソ連が台湾を支配しようとする時

にも、米国は、中国が台湾を武力解放することに反対する積りかと質問した。そうしたらその政治家及び回りの人達は皆笑った。中国が台湾を武力解放しないという義務を負えば、結局台湾解放の障害になり、かえって台湾の平和統一が不可能になってしまう惧れもある。もしわれわれが、そのような義務を負えば、蔣経国はその尾ばを天まで巻き上げる程有頂天になってしまうであろう。

福田総理： 朝鮮及び台湾問題について閣下の意見を聞かせて頂き感謝している。大切な日中問題について余り話をしていないのでそのことについて話をしたい。

鄧小平副総理閣下の訪日は、日中間における歴史的な大きな出来事である。これまで民間レベルにおける経済人の往来は多くあつたが日中条約の締結により政府レベルでの往来が軌道に乗ったことを大変評価している。私が吊橋が鉄橋になったという意味はそこにある。そこで、これからの問題は日中関係をどう発展させるかである。経済面であれば貴国は石油にせよ、石炭にせよ、鉄鉱にせよ、歴大な資源を持ついわば資源大国である。これに対しわが国は資源小国である。石油の8割近くをアラブ諸国から輸入している。片寄りすぎているので、石油の供給源を多様化させたいと考えている。わが国が経済を発展させていく上で貴国との協力を希望している。他方、貴国は「四つの近代化」のため努力しているが、その中には、軍事力の強化がある。これについては、わが国は憲法の関係もあり協力することは難しい。しかし他の分野においては、わが国は貴国の近代化に協力できるので、何か出来ることがあれば遠慮なく言つて欲しい。わが国は、中国の近代化に協力しなければならないと考えている。中国が「四つの近代化」の達成に成功すれば、これはアジアの平和と発展のためのみならず世界全体の安定と発展にとり重要であると考え。貴国が早く「四つの近代化」を実現されるようその成功を心から祈る。

私は、日中問題を考えるに当って、経済協力も大事なことであるが、しかし、もつと大事なことは両国の相互理解と相互信頼を高めることであり、それがないと本当の友好にはならない。廖承志さんはよく知っていると思うが日本には「金の切れ目が縁の切れ目」という諺があるがこれではだめで、日中間の経済上の協力関係のためには日中間に相互理解と相互信頼を高めていく必要がある。

そういう意味で重要なのは、人の往来、文化交流の増加を確保することである。日中間には2,000年に亘る文化交流の歴史があり少し努力すれば、他の国とは違って急速に意義の深い交流ができると思う。そういう意味において華国鋒総理の来日は重要な意義があり、また私が中国の招待を受けたことも大きな意義を持つと考える。日中間に平和友好条約が出来た今、「平和友好」の文字を本当に生かして行きたいと思う。鉄橋がサビ付くことは絶対にあってはならないことであり、そのために精神面での準備をしなければならない。

相互に交流をすすめるためには、相互に内政干渉をせず両国が心からつき合うことが重要であると思う。内政の相互不干渉は永遠に両国の関係がサビ付かないようにするため重要だと考えられるので、中国側においても重ねて注意して頂きたい。

鄧副総理： 福田総理の只今の御言葉に感謝する。中日平和友好条約の深遠な意義は、われわれの想像以上に深いものになると思う。それはここ数日間の国際上の評価からも分る。前回の会談において、福田総理は、「日本の全方位平和外交は、決して全方位等距離外交を意味するものではない」と言われたが、私は、この言葉に注目している。世界中の国は、そうした見方を持っていると思う。われわれ両国の間には、従来より一層すすんだ立派な友好の礎えが出来たと思う。これからは、各分野において両国の関係を一層発展させたいと思う。その中には高いレベルの指導者の往来も含まれる。今回の私の訪日も決して

とるに足らないものではない。出来るだけ早く福田総理及び皆さん方の訪中をお迎えしたいと希望している。

われわれは境遇が違うから、われわれの見解が全部一致するということは考えられない。しかし、今回の会談を通じて、われわれは、大きな根本的な問題についての見方は近いものであると確信できた。見解の違いはあつても、それは理解できることである。たとえ見解が同じであつても、境遇が違つているので、言い方や、やり方が違つてくることも、何ら不思議ではないだろう。これからわれわれ両国は、各分野での協力が発展していくものと確信している。われわれには、良い出発点ができた。われわれは、「四つの近代化」を達成した後もまだまだ貧しいだろう。その時には貴国は更に進歩していることだろう。従つて「四つの近代化」達成後もやはり貴国の協力が必要であろう。ここで申し上げたいことは、中国は貴国にとり役に立たないということでもないということである。中国が発展すれば協力出来る分野も更に増えるであろうし、発展すればする程中国の協力の重みが出て来ると思う。

福田総理閣下は先程内政の相互不干渉について言及されたが、内政の相互不干渉は、われわれの一貫した考え方であり、態度である。中国は、一貫してまた断固として相互内政不干渉の立場をとつている。これは、閣下も、友人方の皆さんも御承知のことと思う。中国も貴国が中国の内政に干渉しないことをよく理解している。

福田総理閣下とざつくばらんに意見交換をすることができ、大変意義深いものであつたと思う。今後も貴国との交流を更に緊密にして行きたいと考えている。これは中日双方の願いであろう。最後に重ねて福田総理閣下、日本政府、並びに日本人民がわれわれ一行に与えて下さった歓待に対し感謝の意を表したい。貴国の情意のこもつた御歓待を受け感銘を深くしている。

-11-

両国間には、まだ話合すべき問題が残っていると思うが、それは外相間での話し合いに委せたい。(思い出したような素振りで)もう一点言っておきたいことがある。両国間には色々な問題がある。例えば中国では釣魚台、日本では尖閣諸島と呼んでいる問題がある。こういうことは、今回のような会談の席上に持ち出さなくてもよい問題である。園田外務大臣にも北京で述べたが、われわれの世代では知恵が足りなくて解決できないかもしれないが、次の世代は、われわれよりもっと知恵があり、この問題を解決できるだろう。この問題は大局から見る必要がある。

福田総理： 鄧小平副総理閣下と、世界の問題、日中両国間の問題について卒直に意見交換し合えて、非常に嬉しい。感謝する。このようにして両国関係は発展させて行けるであろう。大切な事は、日中平和友好条約の精神を守り抜くことである。両国はこの条約により固く結ばれていることを忘れてはならない。

この次は、こんなに厳しい日程ではなく、もっとゆつくりして各地を御覧になつて頂きたいと思う。日中友好のために頑張ろう。

鄧副総理： 互に努力しよう。

福田総理： 最後に、上海で捕われていた日本人2名を釈放して頂いて感謝する。

鄧副総理： (通訳の耳打ちを受けた後、うなずく)

福田総理： この会談の内容を新聞に発表したいと思うが、それにつき打ち合せをやりたい。日本側は高島外務審議官を指名するので相談してほしい。

鄧副総理：

この条約の意義を総

-12-

括すると、過去をしめくり未来を展望する意味をもっているということである。

中国側は沈平アジア司司長を指名する。

福田総理： 私と家内に貴重な贈り物を下さり、感謝している。立派な端溪の硯である。字を書くのは好きだがうまくない。将来うまくなると思う。

(以上)

Record of Meeting between Prime Minister Fukuda and Vice Premier Deng
(Second Meeting)

October 25, 1978
China Division

On October 25, from 10 o'clock until 11:25 in the morning, for one hour and 25 minutes, in the Prime Minister's Official Residence there took place the second meeting between Prime Minister Fukuda and Vice Premier Deng. Following is a record of the meeting. (Participants the same as in first meeting)

Record

(Prior to cameramen, others departing the room)

Vice Premier Deng: This meeting with Prime Minister Fukuda is being watched not only by the people of our two countries but internationally as well.

Prime Minister Fukuda: It is a meeting between Japan and China within the world.

Vice Premier Deng: Of course, many people are happy about it. However, in any case there will be those unhappy about it. Even if you worry about such persons, there is nothing to be done for it, so do not worry.

(Cameramen, others leave room)

Prime Minister Fukuda: Good morning, everyone. I imagine that you all must be tired from each day's difficult schedule, but I would like to begin the second meeting. Before we get into the meeting, in the name of the Government of Japan and of the Japanese people, I would like to invite Premier Hua Guofeng by all means to visit Japan.

Vice Premier Deng: I will certainly deliver Prime Minister Fukuda's invitation to Premier Hua Guofeng.

I think that the Chinese Government and Premier Hua Guofeng will happily accept the invitation.

Prime Minister Fukuda: Thank you (in Chinese). Where shall we start? Do you have some idea?

Vice Premier Deng: (Before the interpreter finishes interpreting, interrupting) I will correct what I just said. On behalf of Premier Hua Guofeng, I happily accept the invitation that Prime Minister Fukuda has just now extended. I think that is clearer, and it ends without becoming a pending issue (all those present laugh).

Prime Minister Fukuda: Thank you (in Chinese).

Vice Premier Deng: The day before yesterday, there was the desire to discuss the Korea issue in today's meeting, and I would like to talk first. I think that we both know each other's point of view regarding this issue. Recently, before Ambassador Sato came back to Japan, we had a discussion regarding this issue. The Chinese Government, as Prime Minister Fukuda and everyone here knows, has always

supported the Korean people's independent and peaceful reunification. We support the policy of the Democratic People's Republic of Korea. This is because they have chosen a policy of independence.

I think that we have a deeper understanding than your country regarding the Democratic People's Republic of Korea. The reason I am saying such a thing is that there is the argument that the Korean situation is tense internationally, and there are people concerned that the Democratic People's Republic of Korea may take some action. To Prime Minister Fukuda and everyone else here, I say that we do not have such concern. We see no sign that the Democratic People's Republic of Korea is going to go on some course of action. This is not some diplomatic statement, but the real situation.

I believe that a situation, existing internationally, in which a single country is divided in two, will inevitably be altered. For China, too, there is the issue of two Chinas, which we will inevitably resolve. We are now in negotiations with the United States on this issue. Two Chinas cannot be recognized, of course, nor can one and a half or one and a quarter. A gradual resolution, when the time is ripe, will be fine. Without a doubt, there will ultimately be a resolution to this problem. It is right that Vietnam became a unified country, regardless of what has been happening. The two Germanys are a major issue. West Germany is strongly demanding the unification of the German people. East Germany, too, has that demand. At present, there are still no visible signs that the conditions for a resolution are in place, but I believe that the day for a resolution will come. I believe that, even if impossible in one hundred years, we will have one in a thousand years. In the case of your country, there may be no issue of two Japans, but there may be one of one Japan and one-tenth of a Japan. This issue, too, judging from the feelings of the Japanese people, will surely be resolved. We have always supported such feelings of the Japanese people.

The issue of Korea, too, is the same one as these. A single people have been divided in two. Accordingly, the reunification of Korea is the unanimous desire of the Korean people in the north and the south. The issue is one of the time and means of resolution, and there the issue is also one of what is the obstacle to reunification. When I visited the Democratic People's Republic of Korea recently, I talked with President Kim Il Sung concerning the reunification of the Korean Peninsula. President Kim Il Sung's opinion and the Democratic People's Republic of Korea's position was one of independently working for reunification. The obstacle to reunification is the stationing of US troops in the south. At the time of the Korean War, the Chinese People's Volunteer Army (PVA) joined in it. It was the People's Volunteer Army in name, but in fact it was China that joined in the war (all those present laugh). China fought in the northern part of the Korean Peninsula, and the United States fought in the southern part. The result was that the 38th parallel was maintained. Even now, China always participates in the talks held at Panmunjom. However, China's presence is limited to Panmunjom. After the Korean War ended, Chinese troops immediately withdrew. Consequently, China's presence is not now a problem for the reunification of North and South Korea, China. Only the presence of the United States is a problem. The Democratic People's Republic of Korea, too, is calling for direct talks with the United States. The United States uses the name of United Nations forces but, in fact, what it is stationing are US troops. Accordingly, there are no grounds for faulting the Democratic People's Republic of Korea's request. The United States initially suggested that it would be better if China participated in this meeting. We replied to the United States that we were not qualified to do so because China had no troops in the Korean Peninsula. The United States should, first of all, take its troops out of South Korea. I think that, if that condition is met, then dialogue between the Korean people in the north and the south will take place. However, the United States continues to reject withdrawal. Accordingly, it is necessary to watch future developments for how this problem will be resolved.

We conveyed to the United States that President Kim Il Sung wishes to hold talks with

the United States. The United States is talking about three-party talks, that is to say, the United States holding talks with North and South Korea. However, the Democratic People's Republic of Korea does not agree with that way of doing it. Of course, the main point is the United States or the United States and North and South Korea. The reason is that the headquarters of the United Nations forces is in South Korea.

China thinks that it would be better for the United States to withdraw its troops and achieve North-South dialogue. Some people worry that a US troop withdrawal would reduce the role that the United States plays for stability in Asia, but even if the US forces were to withdraw several hundred kilometers, such a problem would probably not occur. This, for the United States, would even be a chance to pull back. If the North and South engaged in direct dialogue, then the problem of US participation would end. This is China's attitude towards the Korea issue. We do not know South Korea. We are not in contact with them. However, we have said the same thing to the Democratic People's Republic of Korea and to the United States.

When I talked with Ambassador Sato about this problem, Ambassador Sato raised the issue of why relations between the Soviet Union and the Democratic People's Republic of Korea were not going well. The reason for that is very clear. The Soviet Union everywhere wishes to dominate. If the other party does not accept Soviet demands, then the Soviet Union wrings its neck. China has learned from experience in that regard. At one time, the Democratic People's Republic of Korea could not understand the relationship between China and the Soviet Union. However, in associating with the Soviet Union it was not long before they came to have the same experience as China. Vietnam, too, is probably going to have a similar experience. The Soviet Union built an oil refinery in the Democratic People's Republic of Korea. There is no oil in Korea, so they were to receive oil supplies from the Soviet Union. Despite this plant's being made to refine only oil from the Soviet Union, the Soviet Union has supplied no oil even after the plant's completion. It is a complete waste. This is only one example, but the Soviet Union does many things like this.

What dissatisfies the Democratic People's Republic of Korea the most regarding the Soviet Union is that it has relations with the Democratic People's Republic of Korea on the one hand while having frequent contacts with South Korea on the other. The feelings of the people of the Democratic People's Republic of Korea are hurt by this. The Soviet Union's actions themselves have become an obstacle to North-South dialogue and makes North-South dialogue difficult.

Concerning the Korea issue, China supports the Democratic People's Republic of Korea and is doing nothing to cause any kind of action, nor is the Soviet Union probably scheming to bring about anything. I think that the time is not yet ripe for resolving the Korea issue. However, there will be no sign of a resolution so long as North and South Korea do not themselves take action. China, too, knows of your country's close relationship with South Korea. The Chinese Government and I hope that the Government of Japan and Japan's economic circles will develop closer relations with the Democratic People's Republic of Korea. I think that your country takes care when in contact with South Korea not to hurt the pride of the Korean people. The Government of Japan probably acts in taking various things into consideration, so China does not intend to say anything about it. It is just that, having now been asked by the Japanese side, the Chinese side has made clear its opinion. What I have said may not necessarily be correct. I speak frankly about everything. I am no more than a common soldier, so I speak of things in the words of ordinary soldiers.

Prime Minister Fukuda: Hearing your talk just now, I understood China's position regarding the Korean Peninsula. For both our two sides, there is a common view concerning this issue. Between South and North Korea, there is no tension to bring about a war. The point is that there is no danger of a fire erupting.

The basic point is that the division of a single people in two is a tragedy. South and

North Korea should be unified someday. On this point, I am in agreement with Your Excellency the Vice Premier. The attitude that our country has always taken is the point that South and North Korea should be peacefully unified, that is to say, that they should be united through talking with one another.

Just now you spoke of the presence of the US military having become an obstacle to South and North Korea unifying through talking with one another. Concerning this point, in 1972 the South's representative, Yi Hu-rak, held talks with the North's representative. I very much had hopes for these talks, but they broke off afterwards. We think that such effort is necessary.

Today, when the Treaty of Peace and Friendship between Japan and China has come into being, with our two countries standing on the basis of friendship between Japan and China, is there not the possibility of making efforts with an eye on the opportunity to realize talks, those in which China promotes talks with North Korea and our country promotes talks with the Republic of Korea? I wonder: should not Japan and China make such utmost efforts in promoting the peaceful unification of North and South Korea? I think that it may take time, but it would be better not to forsake such a path.

Vice Premier Deng Xiaoping: China is well aware of the position of the Democratic People's Republic of Korea. That position is mainly one of peace and autonomy. I said to Ambassador Sato as well that settling the Korea issue is difficult. We do not want to zhihui (Chinese word: to intervene) too much from the Chinese side. That is to say, sometimes going too far produces a contrary result. What I have always supported is peaceful and independent reunification. We know that President Kim Il Sung has various ideas. For example, one is that, following the withdrawal of US troops, the North and the South would hold talks and work for reunification in the form of a Korean confederation. I think that your country also knows that. In other words, he is thinking of a realistic way to achieve peaceful reunification. In such a way, it would be fine for both North and South to maintain their systems as they have been until now, with no need to reform their social systems. If the North and the South associated with one another in such a form over a long period of time, they could probably work towards mutual reconciliation and resolve the problem.

I would like to take this opportunity to present our thinking in regard to the Taiwan issue. We have spoken concerning this issue to statesmen of the United States and other countries as well. We think that Taiwan's reality is Taiwan's return to the motherland. We have told the United States to adopt the Japanese formula. Not without reason, there are various ways of understanding what is meant by the Japanese formula. Whatever the formula may be, respecting the reality of Taiwan and adopting the Japanese formula are the greatest concessions of which China is capable. The United States wants to obligate China in one way or another not to liberate Taiwan by military force. However, when and how we resolve the Taiwan issue is China's internal affair. The United States cannot interfere. What we are saying is that we will resolve it while fully respecting the reality of Taiwan. The Japanese formula, too, is based on the approach of respecting this reality of Taiwan.

One statesman in a US delegation asked what China would do if the Soviet Union moved into Taiwan after the United States accepted the three conditions on which China was insisting, that is, abrogating the treaty, withdrawing the troops, and severing diplomatic relations. I replied to his question in saying that we had no such worry. That is to say, in resolving the Taiwan issue, our approach is to respect the reality of Taiwan and to adopt the Japanese formula. At present, Japanese economic elements remain in Taiwan. The United States has even greater economic power than Japan does in Taiwan. I think that their economic power will remain in the future as well and, furthermore, that non-governmental economic exchanges will also continue. If so, then I think that Soviet entry will be difficult. I responded in asking that statesman, if the Soviet Union sought to dominate Taiwan, whether the United States

even then intended to oppose China's liberation of Taiwan by military force. That statesman and the people around him then all laughed. Obligating China not to liberate Taiwan by military force would in the end pose an obstacle to the liberation of Taiwan. There is also concern that, on the contrary, the peaceful reunification of Taiwan would become impossible. If we assumed such an obligation, Chiang Kai-shek would probably be ecstatic about it.

Prime Minister Fukuda: I thank Your Excellency for speaking to me regarding the Korea and Taiwan issues. We have not spoken much regarding the important issues between Japan and China, so I would like to talk about them.

Your Excellency Vice Premier Deng Xiaoping's visit to Japan is a major event in the history between Japan and China. There were many businessmen going back and forth on a non-governmental level, but I think highly of how contacts at the government level have gotten under way with the conclusion of the treaty between Japan and China. Its significance is that of a suspension bridge becoming an iron bridge. Accordingly, the issue henceforth is one of how to develop relations between Japan and China. Speaking from an economic aspect, your country is a resource power, possessing abundant resources, such as oil and iron ore. In contrast, we are a resource-poor country. We import close to 80 percent of our oil from the Arab countries. We incline too much in one direction, so we want to diversify the sources of our oil supplies. Our country, having developed its economy, hopes to cooperate with your country. On the other hand, your country is making efforts for its Four Modernizations, among which is the strengthening of your military power. Cooperation on this would be difficult, given our country's constitution and such. However, our country can cooperate with your country in other areas, so we would like you to tell us without reservation if there is anything we can do. I think that our country ought to cooperate in China's modernization. If China succeeds in its Four Modernizations, I think that it would be important not only for the peace and development of Asia but for the stability and development of the entire world. I sincerely wish that your country success in rapidly achieving its Four Modernizations.

In thinking of issues between Japan and China, I think that economic cooperation is important, but even more important is increasing mutual understanding and trust between our two countries. Without that, there will be no true friendship. There is a saying, which I think Mr. Liao Chengzhi knows, which is, "Relationships will end when the money ends." This will not do. We need to increase the mutual understanding and trust between Japan and China for the sake of the cooperative economic relationship between our two countries.

In that sense, what is important is securing increases in contacts between persons and in cultural exchanges. Between Japan and China is a history of cultural exchanges extending over a period of two thousand years. I think that, with a little effort, significant exchanges can take place rapidly in a way different than with other countries. In that sense, Premier Hua Guofeng's coming to Japan has an important meaning. I also think that my having received an invitation to visit China has great significance. Now that we have a treaty of peace and friendship between Japan and China, I truly want to bring to life the words "peace and friendship." That iron bridge absolutely must not rust. Therefore, we ought to make mental preparations for that.

For the sake of comprehensively promoting exchanges, I think that there is a need for both countries to associate sincerely with one another without either side interfering in the internal affairs of the other. Mutual non-interference in each other's internal affairs can be considered important in relations between our two countries never rusting, so I would like to ask the Chinese side again to take heed.

Vice Premier Deng Xiaoping: I thank you, Prime Minister Fukuda, for what you have just said. I think that the China-Japan Treaty of Peace and Friendship's profound significance will become something more than we imagine. One can understand that from its international appraisal these past few days. At the previous meeting, Prime Minister Fukuda, you said, "Japan's omnidirectional peace diplomacy is by no means an omnidirectional and equidistant diplomacy." I have taken note of these words. I think that the countries of the world have such a view. I think that between our two countries a cornerstone has been laid for a friendship that will be more advanced and greater than before. Henceforth, I want to further develop relations between our two countries in every area. Among those are included high-level leader contacts. My visit this time to Japan is certainly no trivial matter. I hope to welcome as soon as possible Prime Minister Fukuda and everyone here on their visit to China.

Our conditions are different, so it cannot be considered that our views would be completely in accord. However, through this meeting, we could have the firm belief that our views are close on the major issues. Even if there are differences in our views, that is understandable. Even if our views are the same, conditions are different, so it probably is not at all strange that our ways of saying and doing things are different. I am sure that henceforth our two countries will develop cooperation in every area. We have made a good starting point. Even after we have achieved the Four Modernizations, we will probably still be poor. At that time, your country will probably have advanced further. Accordingly, even after achieving the Four Modernizations, we will probably need your country's cooperation. What I want to say here is that it is not that China will be of no use to your country. If China develops, then the areas of possible cooperation will also probably increase further. I think that as China develops more and more, the importance of cooperation will emerge.

Prime Minister Fukuda, Your Excellency recently referred to non-interference in each other's internal affairs. Non-interference in each other's internal affairs has always been our approach and attitude. China has always and adamantly adopted the position of non-interference in each other's internal affairs. I think that Your Excellency and all our friends know this. China, too, well understands that your country does not interfere in China's internal affairs.

I think it was greatly significant to have been able to have a frank exchange of opinions with Your Excellency Prime Minister Fukuda. I would like henceforth to deepen further exchanges with your country. This is probably the desire of both the Chinese and Japanese sides. Finally, I would like to express my thanks once again for the warm reception that Your Excellency Prime Minister Fukuda, the Government of Japan, and the Japanese people have given our party. Your country's affectionate and warm reception has left a deep impression on us.

I think that there are still issues remaining that our two countries should discuss, but I would like to leave those for talks between our foreign ministers. (Appearing as though he had suddenly recalled it) There is one more thing I would like to say. There are various issues between our two countries. For example, there is the issue of what are called in China the Diaoyu Islands and in Japan the Senkaku Islands. This sort of thing is an issue that we need not bring out in a meeting like this one. I said it as well to Foreign Minister Sonoda in Beijing: Our generation may not have enough wisdom to resolve it, but the next generation will probably have more wisdom than us and be able to resolve this issue. It is necessary to see this issue from the whole situation.

Prime Minister Fukuda: I am very pleased to have been able to frankly exchange opinions with Your Excellency Vice Premier Deng Xiaoping regarding global issues and those between Japan and China. I thank you. I believe that, in so doing, we can develop relations between our two countries. The important thing is that we hold fast to the spirit of the Treaty of Peace and Friendship between Japan and China. We must not forget that our two countries are firmly bound together by this treaty.

After this, the schedule is not hectic. I would like for you to see the various sites more leisurely. Let us keep at it for the sake of friendship between Japan and China.

Vice Premier Deng: Let us work together.

Prime Minister Fukuda: Lastly, I am grateful for the release of the two Japanese arrested in Shanghai.

Vice Premier Deng: (Nods after hearing what the interpreter whispers into his ear)

Prime Minister Fukuda: I would like to announce the content of this meeting to the press, but I would like to consult beforehand on that. The Japanese side designates Deputy Vice-Minister for Foreign Affairs Takashima, so we would like to consult.

Vice Premier Deng: [several lines blacked out] to summarize the significance of this treaty, it means settling the past and looking to the future.

The Chinese side designates Asian Affairs Department Director Shen Ping.

Prime Minister Fukuda: Thank you for giving my wife and me a precious gift. It is a splendid Duanxi inkstone. I like to write calligraphy but am not good at it. I think that I will become good at it some day□

(End)